

➤ 防災訓練の取り組み事例(区・町内会など)

➤ 避難訓練

災害が起こった状況を想定し、安全を確保しつつ安全な場所まで避難

(例1)豊岡地域・・・「自主避難を呼びかける」(市民総参加訓練)訓練放送で、防災マップに自宅と避難場所への避難経路を赤線で記入。「避難準備・高齢者等避難開始」の訓練放送で非常持ち出し品袋の確認。「避難勧告」の訓練放送で自宅内のより安全な場所へ避難。

(例2)豊岡地域・・・区役員及び自警団役員で指定緊急避難場所までの避難経路の確認と避難場所を視察。

(例3)豊岡地域・・・区より会館へ避難するよう区内放送を行う。放送後、自警団により受け持ちの隣保を訪問し避難を促す。その際、指定している避難場所以外に避難する家庭の確認と避難先を聞き取る。避難状況を取りまとめて副本部長へ報告。

(例4)出石地域・・・防災行政無線放送を合図に、各家庭に配布図済みの防災マップを活用して、自宅2階または避難所(公民館)へ避難を行う。その後、要援護者の避難を想定して、車椅子を使った搬送訓練、竹2本と毛布を使った簡易担架作りの体験。

➤ 安否確認訓練

家族及び地域住民などの安否を正確かつ迅速に把握

(例1)豊岡地域・・・自宅での垂直避難を完了した家庭は、建物2階の窓にタオルを掲げ、タオルが掲示されていない家庭は、隣保長が安否確認。

(例2) 豊岡地域・・・事前に隣保ごとに避難場所を決めておき、避難情報を合図に避難を開始。安否が確認できない場合は、電話、メール、ラインにより確認を行った。高齢者は、隣保長が訪問し確認。

(例3) 豊岡地域・・・区長の指示により、隣保長は区民へ、民生委員は要援護者へ電話による安否確認・避難情報の伝達。

(例4) 豊岡地域・・・区で作成した「災害時連絡網」により、全世帯の安否確認。

(例5) 出石地域・・・避難行動計画書により要援護者の行動を確認。それ以外の方は、玄関先等に掲示した避難を知らせる札で避難場所や連絡先を把握。

▶ 避難誘導訓練

避難者を避難経路を使って迅速に安全な場所へ誘導

(例1) 豊岡地域・・・区独自の災害対策本部を設置。連絡網により自警団員を参集。支援者である自警団員が要援護者と共に、各自事前に決めていた避難先へ避難。

その際、避難先の一般家庭へ誘導したところ、避難先のホームエレベーターに電動車椅子では入れず、通常の手押し車椅子に乗り換えて難を避ける必要があることが発覚。

(例2) 竹野地域・・・要援護者と支援者で避難場所や声掛けのタイミング、移動手段など相談し、個別支援計画を作成。実際に、車やカートを使用して、決めていた市の避難場所まで避難。

(例3) 日高地域・・・担架や車椅子を使用し避難先へ避難誘導。また、水害時の救出ボートの確認作業を行う。

➤ 情報連絡訓練

避難者や被害状況等を正確かつ迅速に把握し、適切な措置をとるための情報収集・伝達

(例1) 豊岡地域・・・トランシーバーを使用して、地区内を見回り情報収集。

(例2) 豊岡地域・・・ラインを使用して、隣保長が各避難先の写真と避難人数の報告。

(例3) 出石地域・・・区内の戸主グループライン(既存)を使用して、避難状況の共有を行う。

➤ 消火訓練

消火器や屋内消火栓の操作方法を習得

(例1) 竹野地域・・・消防団の指導のもと、区民による地下式消火栓を使用して放水訓練。

(例2) 日高地域・・・消防団の指導のもと、消火栓からの水の出し方、ホースのつなぎ方などの指導を受ける。

(例3) 出石地域・・・消防団の指導のもと、デモ用粉消火器を使用し初期消火訓練。

➤ 図上訓練

自ら災害時に想定される危険等を地図上に書き込む

(例1) 出石地域・・・防災マップの見直しを行い、地区内の災害対応策を検討。

➤ 炊出し訓練

被災者に円滑に飲食物を提供

(例1) 豊岡地域・・・小中学生と一緒に、おにぎりをつくる。

(例2) 豊岡地域・・・婦人会によるアルファ化米の炊き出し。

➤ その他

(例1) 豊岡地域・・・区役員及び隣保長による高齢者宅の訪問。その際、自宅階段の手すり取り付け確認を行ったが、手すりの設置自体には問題がなかったが、足腰が悪く、2階への移動ができる状態ではないことが発覚。

(例2) 豊岡地域・・・防災マップを見ながらグループごとに町歩きを行い、自宅周辺および避難経路等を中心に危険箇所を確認。居住地周辺の危険度、大雨の中での避難が可能かなど確認を行い、区民で情報共有。

(例3) 豊岡地域・・・区役員と民生委員で垂直避難が困難な要援護者宅を訪問し、状況調査と聞き取りを行う。

(例4) 豊岡地域・・・自主防災会役員で土嚢づくりを行い、出水期に備えて土嚢の備蓄を行う。
(旧備蓄土嚢と入れ替え)

(例5) 城崎地域・・・自警団、組長で災害用備品・非常食の確認。非常用テントの組み立て。災害用無線の応答確認。

(例6) 日高地域・・・区内でスムーズに避難状況(どこへ何名)が把握できるように、独自に作成した各戸避難者確認カードの施行試験を実施。災害時、無事に避難した印として、玄関などに挟むことを想定。

(例7) 日高地域・・・豊岡市自主防災組織等資機材整備事業補助金を活用し購入したAEDを使用し、消防署の職員から救急救命講習を受ける。

(例8) 出石地域・・・所定の避難場所に避難後、消防署の職員から防災についての講習を受ける。

(例9) 豊岡地域・・・区民へ水害に対する避難の方法や市の発令する避難情報、非常持ち出し品などの説明。

(例10) 竹野地域・・・防災マップを活用しマイ避難カードの作成。